

平成27年度 第1回印西市スポーツ推進審議会会議録

- 1 開催日時 平成27年 7月24日(金)午後2時00分から午後3時30分まで
- 2 開催場所 松山下公園総合体育館 会議室
- 3 出席者 青木和浩委員 五十嵐靖宏委員 伊東勝正委員 齊藤輝一委員  
梅澤章子委員 齋藤奈智子委員 富所正史委員 秋山 剛委員  
岡田光靖委員
- 4 欠席者 本郷美代委員
- 5 事務局 スポーツ振興課 渡邊課長 岩井副主幹 村越主査 宮内主任主事
- 6 傍聴者 0人
- 7 会議 以下のとおり

1. 開 会 進行 事務局

2. あいさつ 青木会長

<委員紹介>

<事務局紹介>

3. 議 題

<議長 青木会長>

(1) 平成27年度スポーツ事業について

— 事務局説明 —

— 質 疑 —

(会 長) 平成27年度で新規に増えた事業はないか。

(事務局) 昨年度途中より、印西アスリート教室を開催し、今年度は2回目となり、新たに予算化された。

(会 長) 今年度からは計画に含まれていることでいいか。

(事務局) そのとおりである。

(会 長) クライミング大会のような国際的な大会は計画されていないか。

(事務局) 計画されていない。

(委 員) 資料1Pのら・ら・らスポーツ祭とは何か。

(事務局) 教育委員会主催で、主体はスポーツ推進委員となり、ニュースポーツの普及を目的に行っている事業である。「ら・ら・ら」については、「L I F E (らいふ)・L I K E (らいく)・L O V E (らぶ)」の頭文字から命名した。資料として配布した年間行事予定表の中に、ニュースポーツ教室とあるが、小中学生及び市民を対象に、市内各小学校を会場として、教室を開催し、秋にら・ら・らスポーツ祭を開催する。これについては、市の広報・HPで案内する。資料3Pのら・ら・らスキー教室についても、スポーツ推進委員が指導者として実施している事業になる。

(委 員) 6月10日にパークゴルフの県大会を実施したが、市は関わらないのか。他の市町村では、市長等が来られるが、印西市ではそれがなかった。

(事務局) 他競技においても事業と重なり、出席できないことがあるので、理解いただきたい。

(委員) 他の市町村に比べれば、市の関わりが薄いので、もう少し協力的になれないのかと思う。

(委員) 体育協会からは誰か出席したのか。

(委員) 出席していない。

(委員) グラウンドゴルフとパークゴルフは別々の協会なのか。

(委員) 両方の競技をパークゴルフ協会が行っている。

(事務局) 補足になるが、資料の1～3Pは、市民大会の内、市と共催で行っている2大会までを掲載している。また、別添の年間行事予定表は、各協会で開催する年間行事をできる限り掲載している。

(会長) 2大会までという決まりがあるのか。

(事務局) 2大会までは市と共催とし、使用料を免除している。後援が必要であれば、別途申請をしてもらう。

(会長) 可能な限り、資料1～3Pに掲載できる行事を増やすことを検討してほしい。

(委員) スポーツの振興という意味で、競技スポーツと市民レベルのスポーツの2つがあるが、市民レベルのスポーツの普及をしていくには、できる限り誰もが参加できる競技を推進していければと思う。スポーツと言われる中で、誰もが気軽に実施しているものとしては、ウォーキングやジョギング等ではないかと思う。市民を対象に、ジョギングの走り方の教室のようなものを計画すれば、多く人が集まってくるのではないか。もう一つは、ラジオ体操がいいのではないか。誰もが簡単に参加できますので、ジョギング教室やラジオ体操などを計画していければいいのではないか。

## (2) 印西アスリート教室について

— 事務局説明 —

— 質 疑 —

(会長) 主催はどこで、期間は何日か。

(事務局) 印西市が主催で、期間は1日である。

(会長) 2020年に向けて気運を高めていければと思う。国際的な感覚がある方が、実際に講師として指導等をするということに対して、忌憚のない意見をいただきたい。資料5Pが、オリンピックの開催競技一覧になり、千葉県で開催する競技は、テコンドー・レスリング・フェンシングが候補として上がっている。

(委員) 各年度に競技を検討していくのか、一貫して競技を決めていくのか、見解を聞きたい。その年々で競技を変えて、講師を決めても、どこまで成果が上がるのかと思う。市としては、一貫して競技を決めて、何年がかりのプログラムの中でやってはどうか。新潟県十日町では、クロスカントリースキーで全国トップレベルを維持することで、オリンピック選手も出ている。小学校4年生になると、身体能力の高い子を選出し、夏休みに小・中・高校から集められた子供たちで2泊3日の合宿が組まれており、経費は町から出ている。小・中・高校の教師が集まり、町と一緒に国体選手・全日本選手・オリンピック選手を養成している。市として、何の競技で全国に勝負していくのかを定めた上で、実施してはどうか。

(事務局) 競技をしぼって続けていく方法も選択肢の1つと考える。ただし、市としては、ど

の競技にするのかまでは至っていない。1日の教室ではあるが、競技をやるきっかけになってもらえればと考えている。

- (委員) ここ十年で、チャンピオンレベル、市民レベルのスポーツが様変わりしているが、最近のスポーツの状況はどのようになっているのか。
- (会長) 2020年オリンピックが決まって、県や各市でも、アスリート養成を打ち出している。種目を特化した上で予算化、また、市内にいるアスリート候補者に予算を費やすなど実質的な話になっている。ただし、養成と推進は意味合いが異なる。養成については、特化した部局がないと難しい問題であり、例えば十日町などは、スキーやクロスカントリーができる環境があるため養成等はできるが、印西市でその環境があるのかという疑問である。このアスリート教室については、市内の子ども達がスポーツを国内志向だけでなく、海外にも目を転じようという、どちらかというとオリンピックムーブメントに近いような事業なのではという印象がある。そうすると、いろいろな種目を実施して、様々な講師に指導を受けたりすることで、5年後10年後、自分たちを振り返った時にこの教室を思い出し、今後活かされていくようになると思う。捉え方としては、どこをポイントにするかが重要になってくる。実際にアスリートを育成していくという考えもあると思うが、それを実践するには予算が不足しているのではないか。他の市町村は、かなりの予算を投入している。
- (事務局) アスリートという呼称は使っているが、子ども達に一流の方の指導を受けてもらい、可能性を見つけ出し、磨き上げて伸ばしてあげることができれば最高だと思っている。多くの種目を実施するか、ひとつの種目に特化して実施していくかについては、ご意見を参考に決定していこうと考えている。
- (委員) 以前、棒高跳びもブームがあったが、最近の状況はどうか。
- (会長) 印西市出身の澤野選手は、今年はケガのため、世界選手権には出場できない。印西市で行っている棒高跳びの大会については、すごく評判が良く、大会に出場する選手は、世界陸上に出場するような人たちが来ている。普通は目の前で5mを跳ぶ様子を見ることはできない。小学生を集めて教室のようなことをして、それを見ることですごいと感じ、子ども達がスポーツを楽しむきっかけになるかもしれない。イオンで実施している街かど棒高跳びも、実施しているがあまり知られていないので、広報等でもっと宣伝すべきではないかと思う。
- (委員) 市民が棒高跳びを始めようとしても、なかなか難しいと思う。見た人が自分でもやってみようと思う種目を考えた時に、競歩がいいのではないか。順天堂大学出身の鈴木雄介選手が世界新記録を達成したが、あのスピードを見た人は、普通の人が走るより速いことに感動すると思う。競歩の選手等を招き、見せることによって、自分も歩きというものをやってみたいと思う人たちがたくさん出てきたらいいと思う。
- (委員) 平成27年度の第1回アスリート教室については、急遽テニス協会に話があり、タイアップして実施した。小林中と原山中の硬式テニス部に声をかけ、平岡さんに講師・指導をお願いしたところ、たった1時間半ぐらいの間に、教えを受けた中学生が見違えるほど変わった。平岡氏の指導をストレートに受け止め、テニスという競

技に対して、ものすごく興味を持った瞬間があった。ある一定の経験を持った方が指導に来てもらえると、受ける側の人たちはものすごく興味を持ち、たくさんのごとを吸収することができる。そのような教室が1回で終わってしまうと、教わったことがだんだんと薄れ、忘れてしまう。年間3, 4回実施するなど、回数を増やし、実施できたほうがいい。

(委員) 水泳はどこでやるのか。

(事務局) 温水センターで実施する予定である。

(委員) テニスは錦織選手の活躍のとおり大ブームであり、タイミング的には合っているので案としてはいいと思う。水泳もオリンピックの公式種目であるので、テニスで成功したこの教室を、水泳に引き継ぐ形でバトンタッチをして、尚且つ、今後も継続的に実施できるように労力と予算化をお願いしたい。水泳教室がとても楽しみである。

(委員) 対象が市内在住の中・高校生であるのならば、部活動でやっている競技でないとその場限りになってしまうので、現在行っている競技で上を目指せるようにできればいいのではないか。中・高校生へ向けての募集は、部活動に募集するのか、広く市内全域に募集するのか。

(事務局) 原則は中・高校生だが、水泳教室に限っては、小学生も対象にしようと水泳協会と話し合いをしている。来年度以降になるが、部活動を対象に実施することも選択肢のひとつである。ただし、個人競技・団体競技によってスケジュールや教室の内容、募集方法等も変わってくるので、随時検討していきたいと考えている。

(会長) 対象者は誰なのかはつきりさせないと成立しない事業なので、長期的なビジョンで内容を検討し、意見を参考に検討していただきたい。

### (3) 平成27年度スポーツ振興課所管補助金について

— 事務局説明 —

— 質 疑 —

(会長) 補助額以外については、団体が負担しているのか。

(事務局) そのとおりである。

(委員) 補助額以外の予算については、各団体が県からの補助金を受ける等で確保しているのか。

(事務局) ラグビーまつりについては、事業費55万円のうち、市が30万円、千葉県ラグビー協会から10万円、ラグビーまつり実行委員会が協賛で集めた15万円になる。六軒相撲大会については、補助額以外は地元六軒地区から、いんざい室内棒高跳については、補助額以外は参加費を徴収し、それぞれ自主財源を確保している。

(委員) 自主財源を確保できないとこの制度は利用できないのか。

(事務局) そのとおりである。

(委員) 体育協会の事業費が少なすぎないか。

(事務局) 資料に掲載してある事業費は、印西市体育協会の予算であるので、加盟している各団体のそれぞれの予算や会計は含まれていない。

(4) 関東大学女子駅伝対校選手権大会について

— 事務局説明 —

— 質 疑 —

(会 長) 駅伝大会を市町村で受け入れるのは非常に大変である。地元の地区・市町村・県警の理解は不可欠であり、毎回実施してもらえることはありがたい。箱根駅伝に関係したような協力体制があるので、メディアの注目が上がっている。県内の大学もこの大会を目指してきているところが多くなってきているのではないか。

(5) スポーツフェス2015について

— 事務局説明 —

— 質 疑 —

(委 員) 昨年度はちびっこテニス教室を担当したが、指導する我々も、参加した子ども達も楽しくできた。何年か前に婚活テニスというものをやっていたが、ちびっこテニス以外に教室をやってもいいのではないか。

(事務局) 検討する。

(委 員) 昨年度の参加者の年齢別・地域別の実績はどうか。

(事務局) 参加者延べ人数は3,158名で、受付通過した参加者として、幼児175名、小学生306名、中学生9名、学生6名、一般386名、60歳以上28名で、計910名です。25年度と比べると増えている。地区別では、市内が789名、市外が121名である。

(委 員) 中・高校生が少ない。

(会 長) この時期は部活動と重なっているので仕方がない。

(委 員) パークゴルフは、女性と子どもが多く、道具が足りなかった。今年度は道具を用意しておきたい。

(会 長) 内容の変更はあるのか。

(事務局) テニス・パークゴルフの他にも、トランポリンやスラックラインが大変好評で人気のある種目であるので、昨年度の種目を継続して実施しようと考えている。

(会 長) 幼児から高齢者まで幅広い層が参加できる種目を引き続き検討してもらいたい。

(委 員) 駐車場は大丈夫だったのか。

(事務局) 昨年度は、ピーク時で411台の普通自動車の駐車があったが、なんとか公園内で収めることができた。今年度においても対応できるよう努めていきたい。なお、無料シャトルバスも運行しているので、利用していただきたい。

(委 員) シャトルバスはどこから出ているのか。

(事務局) 印旛・本埜・千葉ニュータウンルートで運行しているが、利用者は少ない。

(会 長) 知らない人が多いので、目立つバス停を設置し、チラシ等に掲載すれば利用する人が増えると思う。

(委 員) 臨時駐車場はあるのか。

(事務局) 特に用意していない。

(6) その他

(委員) 市内数カ所に、グラウンドゴルフができる場所を整備してほしい。

(事務局) 担当課に伝える。

4. 閉 会